

市立根室病院

内科医不在の恐れ

4月から 旭医大が引き揚げ

【根室】市立根室病院（羽根田俊院長、百九十丸床）で内科に常勤する

受診や入院を余儀なくされるほか、救急患者にも影響が出る。

したため、四月からは派遣できなくなったと市に通知。もう一人の医師も退職する意向だ。

に内科を持つ民間病院や診療所が十カ所あるが、規模が小さく、外来、救急患者の受け入れには限界がある。民間病院の計

四人の医師が四月から不在となる恐れがあることが三十日、分かった。旭川医大が内科への派遣を三月末で打ち切るなどするため、市は道などに

市立病院は内科、外科、小児科など十七診療科がある総合病院で、道の地域センター病院に指定されている。常勤医師は現在十一人。

市立病院では、年間の外来患者延べ十七万六千人のうち三割、入院患者延べ五万三千人の五割も内科が占める（いずれも二〇〇五年度）。また、

は精神疾患の患者向け。市立病院の内科医師が不在となれば、現在、内科系疾患で市立病院に入院している約四十人の患者や通院患者の多くが、釧路市などの病院で治療を受けざるを得なくなる見

新たな医師派遣を要請している。内科医を確保できなければ、年間延べ五万人を超える外来患者や入院患者の多くは百二十

内科の医師四人のうち三人を派遣している旭医大は、新人医師に二年間の研修を義務付ける臨床研修制度の影響で同大学

市内には市立病院以外

通し。このため根室市は